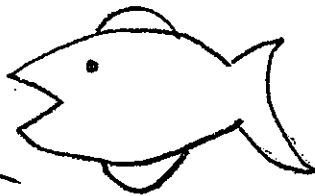
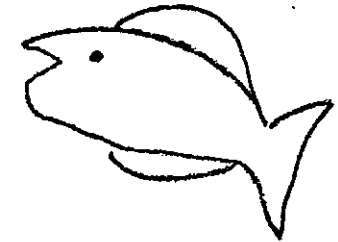


幼児教育実践学会

第1回大会

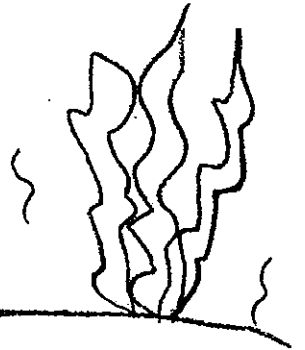
「5歳児の育ち」

～平和学園幼稚園の水族館活動を通して～



平和学園幼稚園

橘 明子



『うみのそこのすいぞくかん』

作詞 年長組子どもたち

作曲 年長組教師

バスにゆられて はしっていたら まどからみえた しろいくも
いわしやくらげのかたちをしてる うみとそらがつながって
うみのなかにいるみたい

あおいうみのまんなかで ふねにのったぼくたちは
うみのそこをのぞいてみたよ
そしたらね
そしたらね

ちいさなさかながあつまって たのしくおよいでいたよ
かおとかおをくっつけて おはなししているよ
「ともだちになろう」
「あそぼうよってさ」

ここはおおきなすいぞくかん いろんなさかなのいえなんだ
すなのなかからかおをだす ゆかいなさかなもいたんだよ (へい)

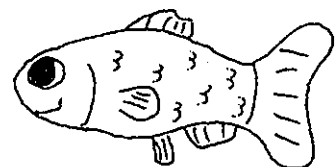


みずのトンネルとおりぬけ おおきないわのどうくつで
おにごっこするさかなたち なかまのむれからはぐれたイワシ
まいごになっちゃったのかな

「あっ、あぶない！」

しずかにおよぐクジラとサメは まいごのイワシをねらってる
ドキドキしながらみていると イワシのなかまがあつまって
たつまきみたいにおよいだら クジラとサメはあきらめた

すいぞくかんのうみにはね いろんなさかながすんでいる
だからいっしょにおよごうよ ちからをあわせていきようよ



「5歳児の育ち」～平和学園幼稚園の水族館活動を通して～

- 1、 幼稚園の紹介
- 2、 建学の精神、教育課程に基づいた保育内容の説明
- 3、 園生活の内容（繋がる教育）
 - 3歳児の育ち
 - 4歳児の育ち
 - 5歳児の育ち
- 4、 水族館活動の報告
- 5、 水族館活動から見る5歳児の育ち

<はじめに>

生命の誕生から準備された環境のなかで、たくさんのもを吸収して大きくなる子どもたちは、あたたかい家庭の中で安心して過ごし、また愛情を豊に注がれてゆっくりとじっくりと成長してることが望ましいと考えています。未来に向かって羽ばたく羽に、可能性という文字がいくつ書かれているのでしょうか。その一つ一つの可能性という羽を私たち大人は何気なく摘まんで抜いてしまっていないでしょうか。

家庭教育から幼児教育へ羽ばたいてきた子どもたちを、さらに大きく羽ばたいていけるように私たち保育者は子どもの育ちを応援し、次の教育へと繋いでいきたいと考えています。幼稚園に入園する子どもたちは乳児期の育ちの引き続きであり幼児期の最後である5歳児は3歳、4歳の育ちがあるから充実したものになるのではないかと思います。本日は水族館活動を通して繋がる保育、繋がる育ち、繋がっている生活をともに考えていただきたく、また明日への保育に役立てることが出来たらと考えていますのでよろしく願いいたします。



平和学園幼稚園の紹介



平和学園幼稚園は神奈川県茅ヶ崎市にあり幼稚園から高校までの一貫教育をしているキリスト教主義の幼稚園です。松林に囲まれ海の近くのため自然豊かな環境に恵まれています。園児数は約200名の茅ヶ崎市では中規模の幼稚園です。

建学の精神

「聖書の教えるキリスト教信仰に基づき、自由で、平和で、あたたかい、愛の学園をつくり、神を信じ、隣人を愛し、真の平和をつくる人を世に送り出すこと」です。



教育方針

自立した創造性の豊かな子どもへ

個性を生かし、経験を通して社会性を養います。

恵まれた自然環境の中で、子どもの個性を生かし、多くの経験を通して社会性を養い、自立した創造性豊かな子どもに成長することを目指しています。

1. イエス・キリストの愛を学び、イエス・キリストの生き方に学んで生きます。
(生活のあらゆる場面で愛を体験する生活。感謝の気持ちを養う子ども)
2. みんなと共に生きていけることを学びます。
(自分の気持ちを相手に伝える生活。協力する生活)
3. 物事を正しく把握し、自分自身で考え、考えをもとに主体的に行動する子どもを目指します。
(自主的に、自立して行動する子ども)
4. 夢をもち、夢を叶える子どもを目指します。
(創造力、想像力を養う子ども)

園外保育（水族館）



平和学園幼稚園

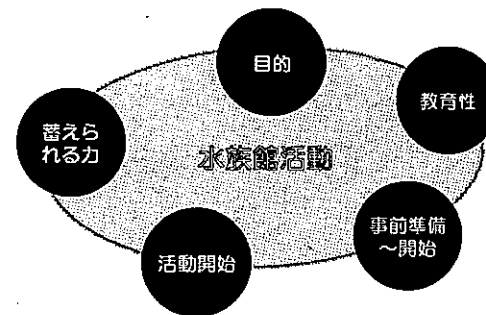
水族館活動を始める前の経験
園生活がコミュニケーションの場になっていることが大切……



子どもたちの交流

おさえておきたいこと

5つのことから



タイムスケジュール

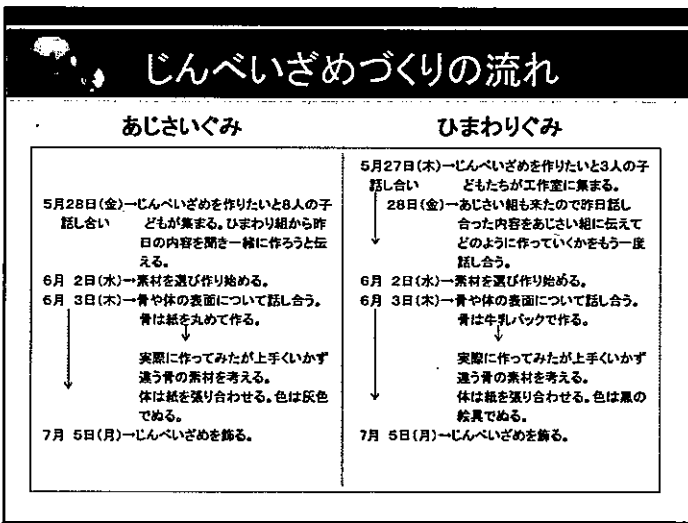
日時	子どもたちの動き
5月24日(月)	園外保育(江ノ島水族館)ー各クラス別に時間差で行く。 1番バス…あじさい組 2番バス…ひまわり組 *水族館についてあじさい組は見学から帰ってきて話し合う。ひまわり組は 見学前に話し合う。 *見学時のマナーについて、グループ行動であることなどを 子どもたちに知らせてどのようにしたらよいかを考えておく。
25日(火)	水族館を見学し子どもたちの気持ちは高まり、すぐに作りたいと いう子どもや見学をしたら作りたいものが変わったという子ども の意見が出てきた。早速お弁当後に、いわし・くらげづくりを行った。 ひまわりぐみのM子が家で作ったくらげをもってくる。(保育室に飾る) 前日の続きを始める。(素材を選んで取り掛かる) じんべいざめ・えい・かくれくまのみ・たごなどの作品にとりかかる

タイムスケジュール

26日(水)	色塗りを始める。(塗りたい色を作り出すことでないと悩む妻がでてる) ・素材 → 新聞紙・紙粘土・紙コップ・模造紙・ビニールテープ すずらんテープ
27日(木)	大きなじんべいざめを作り始める→ひまわり組有志 (大きさや体の厚みなどを話し合い、イメージを絵に描いてみる)
28日(金)	じんべいざめづくり→あじさい組も有志が集まる。 ・2クラスがじんべいざめに取り掛かるのでどのように作っていくのか話し合う。
31日(月)～6月14日(月)	これまでの期間、健康診断・お誕生会・礼拝などもあり、また、一日の過ごし方として子どもたちは、自分の遊びと水族館づくりのどちらをやるのか選択をしてその日を通す。遊びたい、魚づくりをしてみたいという気持ちがあり、自分と向き合う大切な悪夢が始まる。 ・出来上がってきた魚たちはクラスの中に飾る。 *どのような水族館を作るのか、場所はどこにするのか、どのように魚をかざせるのかを話し合う。 ・タツノオトシゴ・マンタ・イルカ・ヒトデ・イソギンチャク ・カインウ・ウツボ・カニ・ハリセンボン・いかなど

タイムスケジュール

15日(火)	ホールに作った魚を飾るという重要にまとまる。 ・子どもたちのイメージは大きく、海の底と海の上、その中で泳ぐ魚たちの様子を表現することになった。
16日(水)～7月5日(月)	自分たちの作品をホールに運び、教師に飾ってもらう。 ・子どもたちの思いをできる限り形にする。
7月 6日(火)	年少組・年中組を招待する。
7月 7日(水)	保護者招待・・・招待状、「海の底の水族館」のチケットを持って集合してもらう。
<p><水族館づくりの様子></p> <ul style="list-style-type: none"> *今年度は水族館をホールで行いたいという子どもたちの意見により初めからホールに飾り水族館を作った。 *2クラスが合同になるために一つのクラスから出てきた意見は、もう一つのクラスに伝えて2クラスの水族館が同じように進行するために話し合いを重ねてきた。 *年少組・年中組の時の遊びの経験がこの水族館活動に結びつく。 例、のり、ガムテープ、セロテープの使い方、カッターナイフ、段ボールカッターなど自由に使う。 *年少組・年中組の時に行った、スキー山づくり、大きなかめづくり、まらづくり、お店屋さん、東京タワーづくり、エルマーのぼうけん(砂遊び)などの遊びの中で学んできたことが、この水族館活動の中に十分活かされていた。 	



<のびのびとたっぷり遊ぶ>という項目からみえる成長

- | | |
|-----|---|
| 3歳児 | <ul style="list-style-type: none">・自分で遊びを選ぶ経験をする・遊びの中で発見し、発展させる・遊びのルールを知る |
|-----|---|



- | | |
|-----|---|
| 4歳児 | <ul style="list-style-type: none">・遊びの種類が増え、自分たちで遊びを作り出す・ひとつの遊びに広がりを持ち、また問題が発生した時には解決するための方法を考える・自分たちのルールを作る（自分に有利な方法が多い） |
|-----|---|



- | | |
|-----|---|
| 5歳児 | <ul style="list-style-type: none">・遊ぶ内容により仲間に変化がでてくる・時間をかけてじっくりととことん遊ぶ姿が多くなる
子どもは遊びの天才といわれるくらい様々な遊びを作りだし、皆が楽しめるようなルールも考えられるようになってくる・遊びの中で問題、トラブルが生じた場合は自分たちで解決しようとする姿や、話し合う姿が見られる |
|-----|---|

まとめ

5歳児の育ちは5歳になったから突然できるのではなく、様々な経験を通して、また5歳までに積み重ねてきた力が土台となり5歳児の育ちがあるのではないのでしょうか。大人にとって当たり前でできること、しかし子どもにとっては経験を積み重ねていかなければ当たり前にはできないということを私たち大人は忘れてはならないでしょう。

一日一日の積み重ねが、日々の生活のつながりが成長の栄養素ともいえると思います。幼児期に自分で考え一歩踏み出して行動する、様々な経験からたくさん感じる心を育てるお手伝いをこれからもしていきたい、また子どもたちの満面の笑顔がいつまでも絶える事の無いようにと願っています。